



令和3年2月8日

阿南市長 表原立磨 様

阿南市総合計画審議会  
会長 平山 けい

「阿南市総合計画2021▶2028」基本計画(素案)について(答申)

令和2年5月28日付け阿南企画第86号で諮問のあったこのことについて、審議の結果、別紙とおり答申します。

なお、審議の過程において委員から出された意見についても参考とされたい。



「阿南市総合計画2021▶2018」  
基本計画(素案)について

答 申

令和3年2月8日

阿南市総合計画審議会

## 1 計画の評価

当審議会は、令和2年5月28日付け、阿南企画第86号の諮問により、令和2年9月に定められた基本構想に基づき、令和3年度から令和10年度までの8年間にわたる阿南市の基本的な施策の方向や取組を明らかにした「阿南市総合計画2021▶2028基本計画(素案)」について、2回の会議を開催し、慎重に審議いたしました。

審議に当たっては、基本構想で示された8年後の将来像「多様な産業が咲き誇る生涯チャレンジ都市」を実現するため、時代や社会の潮流を捉えた認識の下、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症への対策のほか、人口減少問題や防災・減災対策、地球温暖化対策など、安全・安心で持続可能なまちづくりに取り組む姿勢、地域課題や将来課題を市民と共有し、将来に責任を持って共に行動していく「共創・協働」の理念、市民ニーズを踏まえた施策の方向などが盛り込まれているかという点を中心に議論を深め、各委員から多くの御意見、御提言を賜りました。

その結果、本基本計画(素案)は、8年後のあるべき姿、方向について、分野ごとに的確な記述がなされており、適正なものと評価します。

計画推進に当たっては、本答申の趣旨はもとより、審議会の意見や提言を十分に尊重し、計画を計画として終わらせることなく、適切かつ効果的な施策の実施に着実に取り組むことを希望します。

なお、計画を具体化し、実行するに当たっては、次の点に配慮されるよう申し添えます。

## 2 当審議会の意見

### (1) 総括的事項

- 基本計画は、市民とまちを創り上げるための基本的な施策の方向や具体的な取組を示したものであり、市民の理解と共感を得ることが重要であることから、市民に分かりやすい言葉を使用し、読みやすい紙面づくりに努めること。
- 計画を推進するに当たっては、行政のみならず、市民や企業、各種団体が協働して将来像の実現に取り組むことが重要であることから、地域課題や将来課題を共有し、市民等が市政に参画できる機会を積極的に設けること。
- 計画策定後においても、市民(特に若者)の声に耳を傾け、多様な意見に対して柔軟な姿勢を持ち、計画の推進・見直しに生かすこと。

## (2) 基本政策Ⅰ(健康・福祉)について

- 新型コロナウイルス感染症対策として、市民への注意喚起を促すとともに、円滑にワクチン接種を行い、一日も早い終息と市民生活の再生に努めること。
- 2020年の全国の自殺者が20,919人(速報値)と、11年ぶりに前年を上回った。新型コロナウイルス感染者の拡大で生活環境の変化や雇用など先行きへの不安が心理的な負担につながっているとみられているが、本市も「自殺予防の推進」に取り組む必要があると考える。

## (3) 基本政策Ⅱ(安全・安心)について

- 本市は、南海トラフ巨大地震など大規模災害発生リスクを背負っている。非常時においても柔軟な対応と新たな発想で、市民の安全・安心な暮らしを守ることを最優先に取り組んでいただきたい。
- 東日本大震災から今年で10年となる。本市では、1.17防災未来賞「防災甲子園」で受賞するなど、本市の学校における防災・減災教育は、先進的な取組が行われている。南海トラフ巨大地震の発生に備え、引き続き、子どもたちの命を守るための実効性のある取組を推進していただきたい。
- 管理不全空き家問題は、街並みの景観を損なうだけでなく、事前防災や予期せぬ火災発生などのリスク要因となる。また、災害発生時の救命救急活動の支障となることも考えられる。官民連携による取組により、阿南版空き家活用モデルが確立されることに期待する。

## (4) 基本政策Ⅲ(教育・文化)について

- 近年、スマホ利用の低年齢化が進んでおり、誰もが手軽に情報を得られるようになった。また、小中学校においてGIGAスクール構想が進められている。氾濫する情報に惑わされず、正しい情報にたどり着き、活用する力が求められることから、学校教育の「安全で安心して学べる教育環境の充実」の取組において、「メディアリテラシーの育成」にも取り組んでいただきたい。
- 学校の再編統合を進めるに当たっては、さまざまな意見や要望が出されると思うが、まちの将来に関する情報を共有し、保護者のみならず、地域住民の方にも理解や協力が得られるよう、丁寧な説明や意見交換を行う必要があると考える。また、統廃合により、使われなくなった学校施設を民間に開放するなど、有効活用できる仕組みづくりも併せて検討しておく必要があると考える。
- 市民の豊かな心を育み、文化・芸術・生涯学習を推進する上で、市民会館や阿南図書館が果たしてきた役割は大きい。また、パブリックコメントでも図書館機

能を含めた複合施設の整備を求める声が多く寄せられている。公共施設の適正配置や財政面での課題もあると思うが、前向きに検討していただきたい。

#### (5) 基本政策Ⅳ(産業・交流)について

- 農業に関係する取組について、非常に高い目標が設定されているが、農業団体等関係機関と連携を図り、着実に計画を進めていただきたい。
- 高速道路の開通により、本市の産業の更なる成長と発展につながることを期待されることから、将来を見据え、新たな産業基盤の整備を検討していくことは大変重要であるとする。
- 2050年のカーボンニュートラルに向け、産業振興に取り組んでいくことは、「新産業都市構想」を軸とした先人たちの想いを継承するものであり、カーボンニュートラルへの取組を明記したことで、より中身の濃い計画になったと感じている。また、再生エネルギー関連企業やバイオマス発電事業に取り組む企業、更には脱二酸化炭素に向けた新たな事業展開を目指す企業が集積する本市にとって、カーボンニュートラルによる新たな産業の創造は、更なる産業の成長・発展につながる可能性がある。こうしたことから、カーボンニュートラルに関する記述は、「自然環境」のみならず、阿南市の経済・雇用を支える「産業」の分野にも必要であるとする。

#### (6) 基本政策Ⅴ(都市基盤・都市環境)について

- 1級・2級河川のような大きな川は、国や県が定期的に水質検査を行っているが、中小の河川は、汚れが目立つ川も少なくない。水質を保全することは、生活環境の改善だけでなく、良好な自然環境の再生や安全で安心な農産物づくりにもつながることから、「中小の河川の保全」と「監視・観察体制の強化」が必要であるとする。
- 四国横断自動車道及び阿南安芸高規格道路の早期開通に向け、国や県などへの働きかけを強化していただきたい。

#### (7) 基本政策Ⅵ(都市運営)について

- 「ふるさとの未来を共に創る市民協働のまちづくり」を推進するに当たっては、当事者である若者の参画は欠かせない。行政と若者が定期的に意見交換を行う場を設けるなど、若者がまちづくりに関わる仕組みづくりが必要であるとする。

- 総合計画に基づき、行政を適切に進めていく上で、行政と市民の信頼関係が重要となる。「出前市長」の開催を始め、SNSを活用して積極的に情報発信するなど、開かれた行政の下で市民との信頼関係を築いていただきたい。
- デジタル社会の構築に向けては、地域における学びの場を設けるなど、誰一人取り残さない、人にやさしい方法により、デジタル化を進めていただきたい。

#### (8) SDGsの推進について

- SDGsを推進するに当たっては、行政による普及・啓発活動や教育の推進のほか、市民や企業、経済団体、国際交流団体など、多くの利害関係者による相互連携が不可欠であり、リーダーシップを発揮していただきたい。

### 3 おわりに

審議の過程における意見や要望のうち、この答申で示すことができなかった個別具体的な提案については、各種施策を実施する過程において、改めて検討されるよう要望します。

また、今後のまちづくりを進める上で、基本構想の基本政策で示された「市民と共に創る持続可能なまちづくり」を実践につなげることが重要であることから、そのことを市民に十分理解され、行政と協働意識が高まるような取組を期待します。

さらに、基本計画(素案)で示された目標指標が、まちづくりの目標に対する達成状況を客観的に把握する上で、適切な指標であるか、市民に理解されやすい指標であるかなどについて検証し、必要に応じて見直しされるよう要望します。

最後に、計画を推進するに当たっては、計画された施策が適切に実行され、その成果を市民目線で検証し、市民の意見等を反映した計画の見直しを行っていくことが重要です。また、社会環境の変化に臨機応変に対応するため、計画の内容を軌道修正する柔軟な運用も求められます。

そうしたことを踏まえ、阿南市が目指す将来像である「多様な産業が咲き誇る生涯チャレンジ都市」の実現に向け、各種施策の推進に最大限努められることを希望します。